

■ 事例報告

[守谷市南部地域包括支援センター]

T氏 [男性] 67歳

【病名】 アルツハイマー型認知症

60歳 若年性アルツハイマー型認知症診断

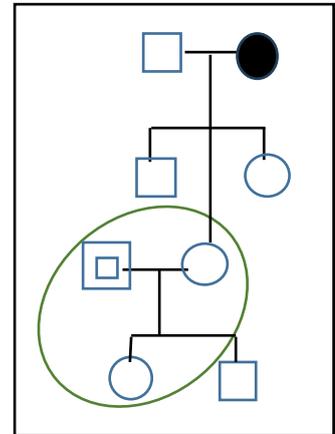
専門の医療機関に受診していたが、拒否が強く中断
(最終通院は令和6年7月下旬)

【家族背景】 本人、妻と長女の3人暮らし

※令和元年、近隣県から妻の実家に転居

(義母の介護のため)

戸建て/同敷地内に義父、義兄、義妹が在住



【生活状況】 介入時の状況

- ・身体機能は、問題なし / 氏名は言えるが、住所は言えない
- ・食事は目の前にセッティングが必要、自力で摂取可
- ・入浴は嫌がり、指示誘導がなければきちんと洗身することができない
- ・トイレの場所がわからなくなり、放尿することあり
- ・服薬管理は家族だが、拒薬があり/買物もできない
- ・1日自宅で過ごし、近所を散歩する程度、人込み等を嫌い買物にも行きたがらない
- ・家族に対して、暴力・暴言を吐くことがあり
(行方不明になった日の朝)、本人がちよっとしたことで怒り出し、娘に対し暴言を吐いた
そこに仲裁に入った妻が首を絞められた

【支援経過】

- ・令和6年10月 朝家族とトラブルになり外に飛び出すように外出
夕方になっても帰宅せず、警察に連絡 同日、深夜に隣接市で保護
翌週 状況確認のために市職員とともに訪問
→認知症状が進行、医療の介入が必要と判断
同週 「もの忘れ外来」を受診
→内服処方されたが、入院治療が必要で精神科病院勧められた
介護保険申請
- ・一旦は、帰宅。内服により一時的に症状が安定したが、すぐに敷地外にでたり、近隣宅の玄関を間違えて開けたりと症状がおちつかず。家族の心理的負担が増強。
令和6年11月初旬、精神科病院に任意入院

【今後の方向性】 介護認定:要介護3

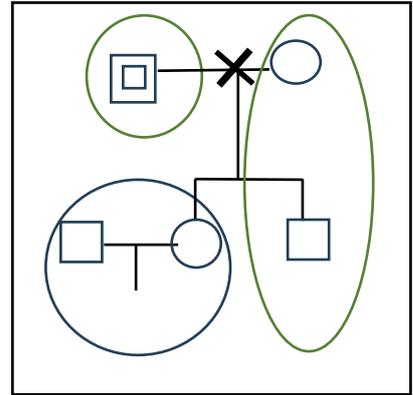
現在も精神科病院で入院加療中/退院後は施設入所を希望、支援を継続中

E氏 [男性] 76歳

【病名】 糖尿病 血糖コントロール不良
アルツハイマー型認知症
定期受診せず、体調が悪くなると受診

【家族背景】

独居／離婚歴あり 元妻に対してDVで逮捕歴あり
元妻と息子(障がいあり) 二人暮らし
長女は近隣市在住、結婚し家庭あり
家族は、関わりを拒否 唯一、長女がキーパーソンとなるが負担が大きい



【生活状況】 介入当初

- ・自宅内はゴミ屋敷、猫の糞がそのまま放置
- ・台所の流しは食べ残し等で溢れかえっている状況
- ・移動は徒歩、自転車、トラクター等を使用
- ・買い物は近隣のコンビニに向かう
- ※ 近隣住民や民生委員も心配し訪問、訪問者の受入れは良好
- ※ 体調には調子にムラあり、困った時だけSOSを周りに発信

【支援経過】

- ・令和2年2月 交通事故で入院したことから包括が介入 定期訪問開始
生活支援のためにいくつもサービスを提案するが拒否
体調が悪くなるたびに周囲の方SOSをだし、徐々にADL低下
- ・令和5年5月 介護認定:要介護Ⅰ 介護サービスにつながらず
7月 熱中症や体調悪化が懸念され、頻回に訪問
8月 生活保護受給開始 →長女と連絡をとりあいながら支援継続
冬季 暖をとるために羽毛布団を燃やしたのか、居間中に羽根が舞っていた
- ・令和6年1月 担当ケアマネジャー(以下、CM)と契約 介護サービス導入開始
4月 金銭管理のため日常生活自立支援事業開始
※体調悪化をきっかけに、後ろ向きの長女と連絡を取り合い、支援に巻きこんでいった。

【今後の方向性】

現在は担当CMが決まり、介護サービス等が導入されたことにより日常生活に一定の安定をもたらすことができている。しかし家族との関係性が改善したわけではなく、更なる家族の介入は望めない。そのため、できる限り在宅生活を送れるように、サービスを調整しながら家族との関係が切れないように支援を継続していく。